

在職時のこと、現況のこと



京都産業大学名誉教授 吉 富 和 雄

経営学部創設 50 周年おめでとうございます。

私は、1974 年 4 月から 2011 年 3 月まで京都産業大学経営学部で 37 年間在籍し、65 歳選定年制度で退職いたしました。

在職中の私にとってもっとも記憶に残っていることは、退職直前の 2 年間経営学部長に任ぜられたことです。このような職責を担うことは自分にとって無縁なものと思っていましたので、まさに青天の霹靂でした。私は、学部を統括し運営するという能力を持ち合わせていないし、強いリーダーシップも持っていたわけではありません。その時まで一度も部局長職の経験はなく、学長や理事長といった本部の人達との接触もなかったのです。何も知らない何も分からない私を支えてくださったのは、学部の先生方や事務の方々でした。皆様のお知恵やアドバイスと共に多大なご協力を得てなんとか乗り切ることができました。

私は、経営学部をどのような姿にするのかという明確なビジョンを持っていたわけではなかったのですが、学部運営委員会のメンバーとの話し合いの中で、まず学部構成員全員を元気に活発にしないと発展はないし、魅力ある学部にならないという考えに行き着きました。「元気になる経営学部」、これをキーコンセプトにし、これにより経営学部の基軸が定まりました。学生諸君の活性化の一つは、「Jリーグ京都サンガを盛り上げよう企画」として具現化し、多数のゼミ生の参加と多くの提案により一定の成果を上げることができました。

学部長は学部と大学本部との間に立つ、明らかに中間管理職です。私は、部局長会議での議論や学長など本部の意向を学部教授会で可能な限り「オープン」にすることを旨としました。また、学部としての意思も本部に向かって積極的に発言したつもりです。このような私の姿勢は皆様のご理解を得たようで、学部運営は思ったよりもスムーズにいきました。繰り返しになりますが、大過なくそれなりに学部長職を全うすることができたのは皆様のご協力の賜物であったと、今でも時に思い返しています。有難うございました。

さて、早いもので退職後もう6年を経過しました。私の第二の人生について少しお話ししたいと思います。

退職後は完全に仕事から離れ趣味に走っています。現役時代からも運動好きでありました。40歳前から水泳を始めて心肺機能が強くなり、40台半ばからはマラソンも走るようになりました。10キロからフルマラソンの完走まで割合早く到達しました。そうなると自転車をすればトライアスロンということになります。これもショートから始めミドル、宮古島のロングをフィニッシュできた時に味わった達成感と喜びはたまらないものでした。ロングディスタンスのトライアスロン（長時間、ほぼ1日）の魅力にとりつかれてしまったのです。その後50台初めから60台中頃までアイアンマン・ジャパン（スイム3.8キロ、バイク180キロ、ラン42.2キロ）を中心に参戦してきました。ただ、完走できたのはほんの数回でしたが。

これからは思い通り練習できると思った退職後でしたが、練習時間は取れるのですが、身体がいうことをきいてくれなくなりました。加齢のせいでしょうか、疲労がなかなか回復しないのです。3種目の練習が困難になり、66歳でのロングが最後となっています。

最近はマラソン、特にトレイル・ランニングに軸足を移しています。マイペースで野山を走るのは気持ちが良いです。もちろん速くは走れませんから、いつも制限時間との競争ですが。トレランもブームのようで、エントリーが難しくなっています。100キロ越えや100マイル（160キロ）の山岳レースなど様々ありますが、完走できたのは50キロのレースが最長で、それも一度きりです。どんどん体力・走力が低下し、もう無理なのかなと思うこともあります。まだまだ諦めたくはありません。私はしつこさだけが取り柄です。何歳までできるか不明ですが、これからもできる範囲内でトレーニングをして参加可能な大会に出場したいと思っています。

最後になりましたが、経営学部のそして京都産業大学のさらなるご発展を祈念しております。